

1. 「わかる」「楽しい」授業を創造するために必要な力

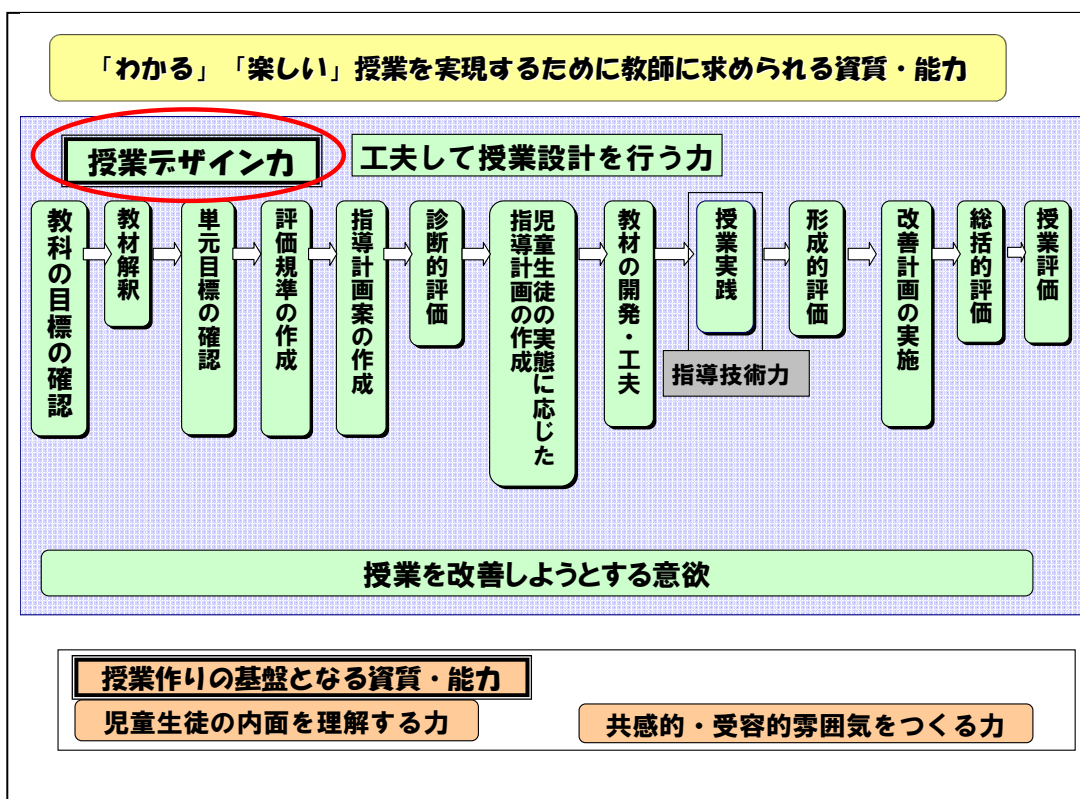
授業を実施するにあたり、教師が身に付けておくべき資質・能力として、大きくは次の3つの要素があります。

「わかる」「楽しい」授業の創造のためには、とりわけ授業デザイン力を高める必要があります。

- **授業デザイン力**
 - ・ 授業の計画から実施，評価までの全体の流れ（図の中央）をデザインし，実践をコントロールする力
 - ・ 授業を改善しようとする意欲

 - **指導技術力**
 - ・ 授業デザインの結果として表れる教師の指示・発問、板書、教材提示など

 - **授業づくりの基盤となる資質・能力**
 - ・ 児童生徒一人一人の心情面を理解する力
 - ・ 共感的・受容的雰囲気をつくる力
- } 自由に自分の思いや考えを表出し、互いが学び合えるように



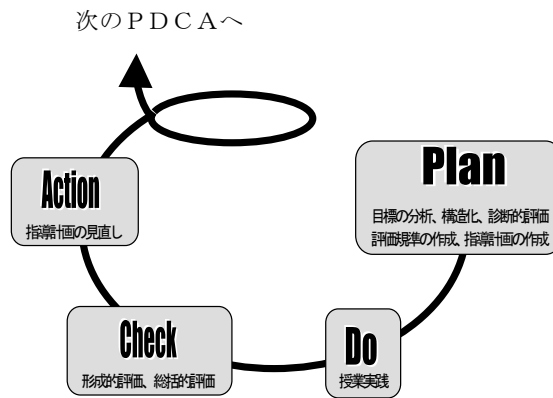
「わかる」「楽しい」授業を創造するために教師に求められる資質・能力

2. 授業改善に向けたマネジメントサイクル

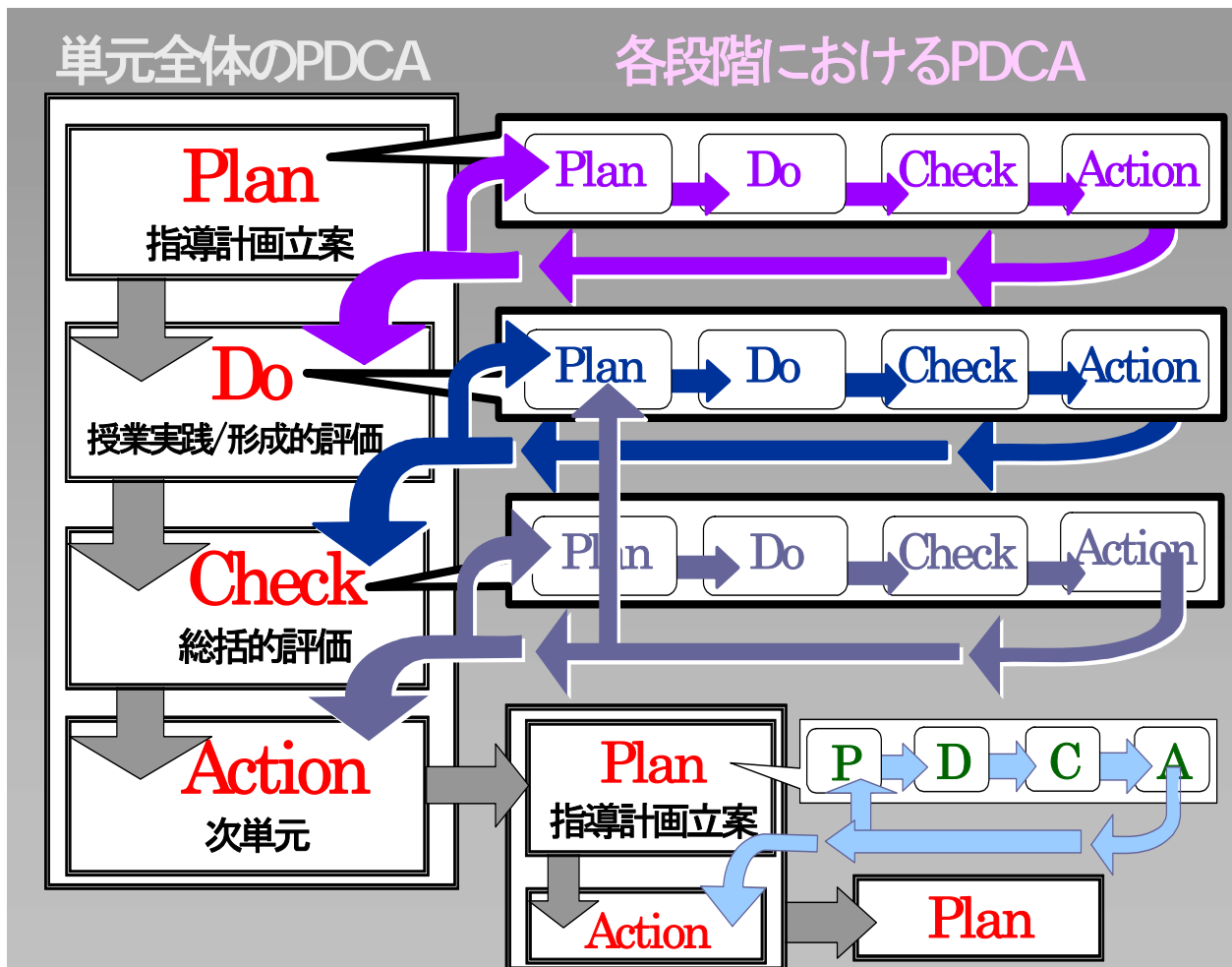
授業デザイン力を高めるには、教師自身が児童生徒や他の教師などから得た評価資料を活用して、授業をふり返り、自分の指導の長所と改善点を自覚し、授業改善していくことが大切になります。

授業を計画して（Plan）、実践し（Do）、評価して（Check）、改善する（Action）というマネジメントサイクル（以下、PDCAサイクル）で自己評価活動を充実させましょう。

授業デザインにおけるPDCAサイクルの場面には、単元全体を見通した大きなサイクルと、各段階の実践を確実に行うための小さなサイクルがあります。



授業改善のマネジメントサイクル



単元の指導における2つのPDCAサイクル

3. 授業デザインの手順と教師の自己評価の場面

下図は、授業デザインを進めていく過程で、ポイントとなる教師の自己評価の場面とその内容について示したものです。



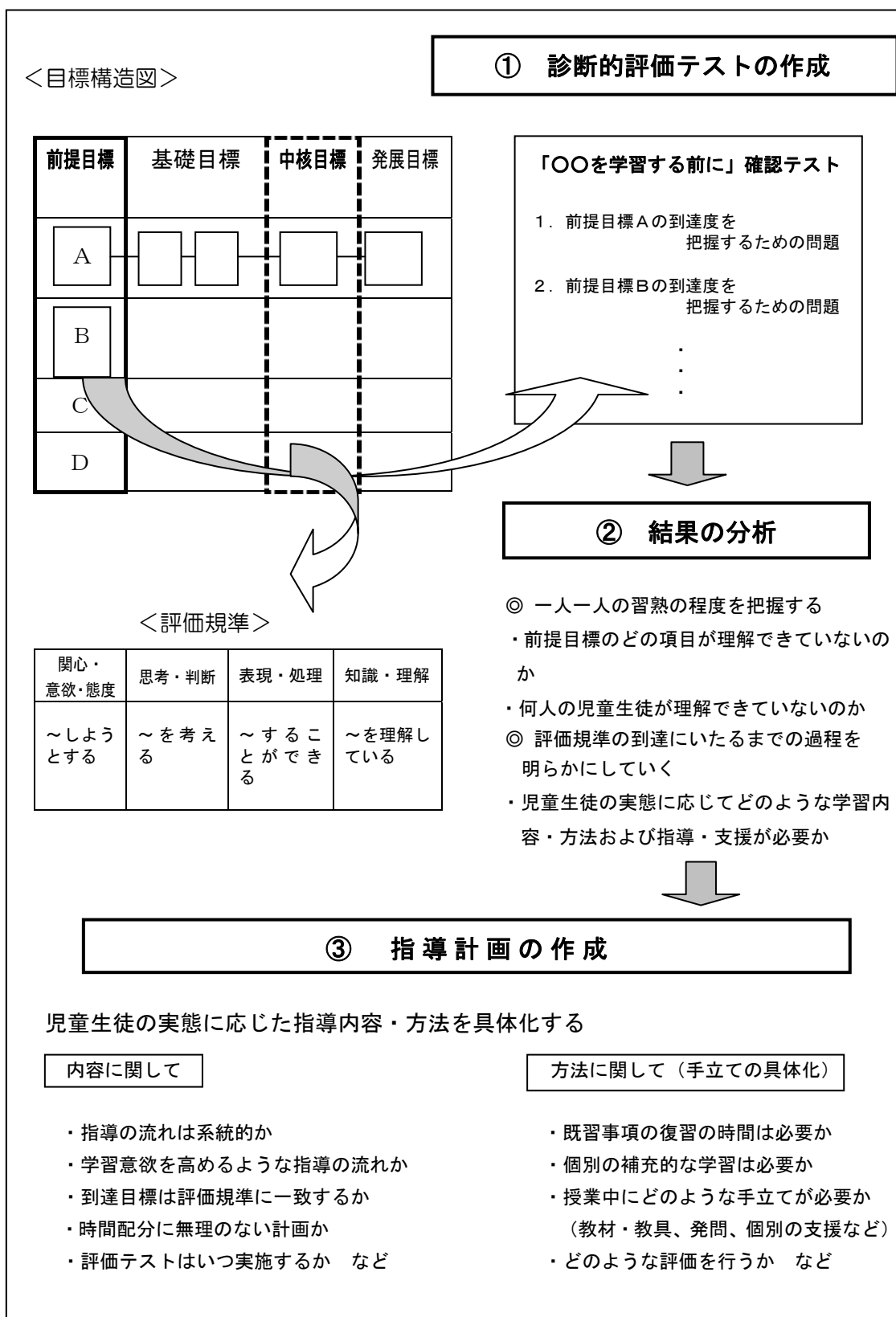
授業デザインの手順とポイントとなる教師の自己評価の場面と内容

下の表は、授業デザインを確実に進めていくためのチェックリストです。
各過程における具体的なデザインの内容については、次頁以降をご覧ください。

表 「授業の自己チェックリスト」

段階	内容	自己評価の項目	チェック
P	目標の確認	教科の目標、単元における目標、単元における学習内容を確認する	
	目標分析表と目標構造図の作成	学習指導要領に示されたねらい、身に付けさせたい基礎・基本をもとに目標分析表を作成する→中核目標、基礎目標、前提目標、発展目標を設定する	
	評価規準の作成	中核目標をもとに評価規準を作成する	
	診断的評価にむけた問題の作成、実施	前提目標をもとに既習事項の到達度・理解度を把握する評価問題を作成する	
		児童生徒の学習に対する意識や学習スタイルなど個人差を把握するアンケートを作成する	
		診断的評価テストおよびアンケートを実施する	
	児童生徒の学習状況をふまえた指導計画の作成	診断的評価の結果から前提目標の到達度をとらえる	
		前提目標の到達度に応じて大筋の学習の流れを考える	
		指導方法を検討する	
		各時間の評価規準を作成する（重点的な項目を明確に）	
教材の開発・工夫	指導と評価の計画を立てる		
	学習意欲を高めたり、思考の手助けとなる教材・教具を開発・工夫したりする		
D	授業実践	本時の課題を把握できるよう、導入場面を工夫する	
		自分なりの見通しをもって解決する時間と場を確保する	
		筋道立てて考えられるよう、発問や板書のしかたを工夫する	
		主体的な学習となるよう、多様な学習活動を取り入れる	
		個に応じた指導を行う	
		自分なりの考え方を発表する時間と場を確保する	
		自分や友だちの考え方のよさに気付かせるようにする	
		目標に対応してまとめをする	
	学んだことを活用し、定着を図るようにする		
	形成的評価の実施	多様な評価資料を活用して形成的評価を行い、その結果をもとに指導計画の見直しを行う	
補充的な学習、発展的な学習の内容・方法を検討する			
C	総括的評価の実施	評価規準をもとに評価テストを作成し、実施する	
		総括的評価テストおよび形成的評価の結果をもとに、総括的評価を行う	
	「努力を要すると判断」された児童生徒には、補充的な学習を行う		
授業の評価	児童生徒に対する意識調査などをもとに、学習の成果と改善点を明らかにする。		
A	授業改善	授業評価の結果をもとに、次の単元における手立てを工夫する	

下図は、児童生徒の実態に応じた指導計画立案までの大まかな流れを示しています。



PDCAサイクルをはじめる前に

普段の授業のふり返り

PDCAサイクルによる授業改善を行うには、まず、普段の授業をふり返り、自分の課題や目標を見出すことが大切です。

下の〈授業改善チェックシート〉を利用して、授業のふり返りを行い改善点を見出しましょう。

〈授業改善チェックシート〉(小学校の例)

○()年()月()日 ()小学校()年・指導者()
 ○単元名()教材名「 」全 時・第()次()時間目

チェック項目	備考
① 教材研究をふまえて、本時の授業を展開しているか。 A. 教材研究をふまえて、授業を展開している。 B. 教材研究はしているが、授業に反映されているとはいえない。 C. 教材研究をふまえて授業を展開していない。	教材研究をしているが、どのように授業に反映させたらいいかわからない。→B
② 児童の実態をふまえて、授業を計画しているか。 A. 児童の実態をふまえて計画している。 B. 児童の実態をふまえようとはしているが、十分計画に生きてはいえない。 C. 児童の実態をふまえて計画していない。	
③ 本時の学習課題を児童に意識させているか。 A. 学習課題を共通理解できるような指示・発問・支援がしっかりとされている。 B. 学習課題を板書として提示している。 C. 学習課題を提示していない。	学習課題を教師も児童もはっきりとつかめていない。→C
④ 個に応じた指導の手立てを講じているか。 A. 支援が必要な児童をあらかじめ把握し、適切な指導をしている。 B. その場に応じた指導をしている。 C. 個に応じた指導をしていない。	
⑤ 目標に対応したまとめになっているか。 A. 目標に対応している。 B. 目標には対応していない。	理解が速い児童を中心に授業が進んでいる。→C
⑥ 評価規準に基づいて到達状況の評価をしているか。 A. 評価規準を決めて、評価をしている。 B. 評価規準は定まっていないが、評価をしている。 C. 特に評価をしていない。	
⑦ 児童が自己評価して、自分の次の課題を見つけることができるように工夫しているか。 A. 評価規準を明示した自己評価カードなどで学習をふり返り、課題を見つけるように工夫している。 B. 感想の発表等で自己評価ができるようにしている。 C. 自己評価の場面を設定していない。	評価規準を明確に提示して、授業のふり返りをしっかりとしなければ。→B

Plan-① 教科の目標確認、教材解釈

- 学習指導要領における教科の目標を確認します。

(例) 小学校算数の場合

数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。

算数的活動って何だろう？

どのようにすれば身に付けることができるのだろう？

数理的な処理のよさって何だろう？

このような疑問点が出てきた場合は、各教科の学習指導要領解説を参考にして、教材解釈を深めます。

(小学校学習指導要領解説 算数編 第2章より抜粋)

(1) 数量や図形についての算数的活動を通して

目標のはじめにおかれている上記の部分は、「算数的活動を通して」とあるように、それ以下に示されている算数科の目標を実現するための全体的な学習指導方法の原理を述べたものである。それは、教育課程審議会の答申の「小学校算数の改善の具体的事項」において、「数量や図形についての作業的・体験的な活動など算数的活動に取り組み」と述べられていることを受けている。(以下略)

- 教材解釈において、学習指導要領の趣旨を理解します。

学習指導要領から、教材や単元に関する目標と内容を確認します。次の例のように、学年間での内容のつながりが重要となる単元(題材)もあります。

(例) 小学校算数 第3学年「あまりのあるわり算」の単元に関する内容

第3学年の内容 [A 数と計算] (4) ア

除法が用いられる場合について知り、それを式で表したり、その式をよんだりすること。また、余りの意味について理解すること。

学年の内容としてはこの部分だけです。

$$23 \div 5 = 4 \text{ あまり } 3$$

ぜんぶの数 1人分の数 人数 あまり

$$5 \times 4 + 3 = 23$$

1人分の数 人数 あまり ぜんぶの数

「小学校算数3年上」

しかし、教科書には「答えのたしかめ」として、言葉の式で整理しています。

この内容は、第4学年の内容とつながっていることがわかります。

第4学年の内容 [A 数と計算] (3) ウ

除法について、被除数、除数、商及び余りの間の関係を調べ、次の式にまとめること。 (被除数) = (除数) × (商) + (余り)

Plan② 目標分析から評価規準作成まで

目標分析から評価規準の作成までの手順は、次のようになります。

(1) 目標分析表の作成

- ・ 学習指導要領から、単元の目標および単元を構成する学習内容を読み取ります。
- ・ 目標分析表の縦軸には学習内容を、横軸には教科の評価の観点を並べて整理します。

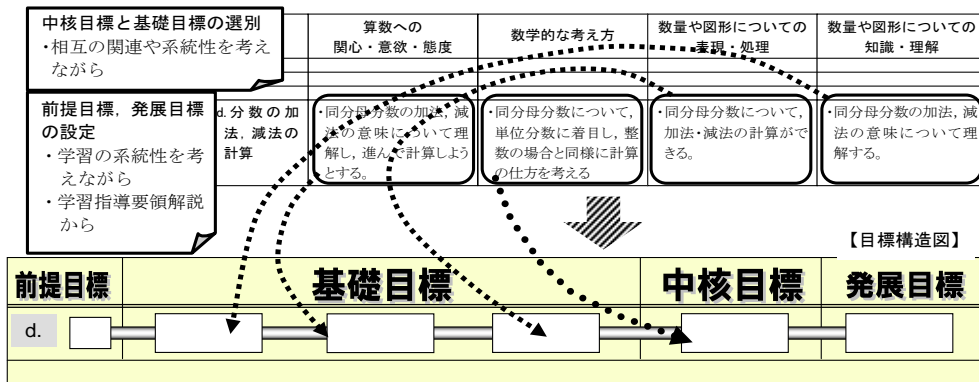
学習事項	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1・・・	～しようとする。	～考える。	～できる。	～している。
2・・・				

目標分析表

(2) 目標の構造化

目標分析表に示した目標全体の中で、特に重要なものを精選し、構造化します。

- ・ その単元で本質的な意義をもつ「中核目標」を選び出します。
- ・ 中核目標に選んだ以外の目標は、中核目標を支える「基礎目標」とします。
- ・ 既習事項の中で、その単元の学習を進めるにあたっての前提として理解や定着を確認しておくべき目標を、「前提目標」とします。
- ・ その単元では必ずしも達成しなければならない目標ではないが、余裕があれば学習させたいといった事項や課題を、「発展目標」とします。



目標構造図の作成

(3) 評価規準の作成

目標構造図で明らかとなった

「中核目標」は単元の評価規準に、「前提目標」は診断的評価の評価項目となります。毎時間の評価規準は、学習前の児童生徒の学習の到達度・理解度に応じて立案する指導計画にあわせて作成します。




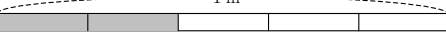
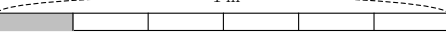
<評価規準>

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
～しようとする。	～考える。	～することができる。	～を理解している。

Plan—③ 診断的評価テストの作成・実施から結果の分析まで

- 前提目標をもとに、診断的評価テストの問題を作成します。

(例) 第5学年「分数」における診断的評価テスト

前提目標	➔	<p>1 次のかさ(容量)を分数で表しましょう。</p> <p>①  答え () ℓ</p> <p>②  答え () ℓ</p> <p>③  答え () ℓ</p> <p>2 次の長さ(長さ)を分数で表しましょう。</p> <p>①  答え () m</p> <p>②  答え () m</p>
端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを分数を用いて表すことができる。		

前提目標をしっかり確認し、その目標に到達しているかどうかを調査するための問題を作成します。

算数科では、特に領域の系統だけでなく、数学的な見方や考え方のつながりも考慮して、多様な観点から問題を作成します。

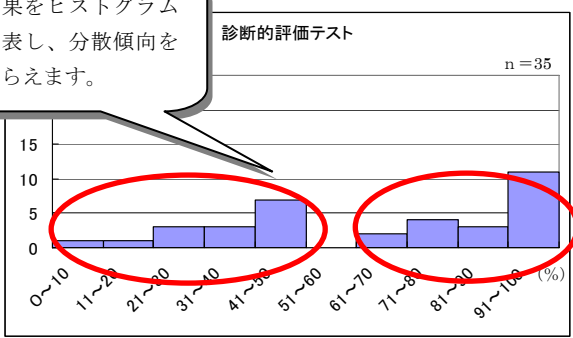
《診断的評価テストの内容》

- a. 分数の意味と表し方
- b. 真分数、仮分数、帯分数の区別
- c. 分数は単位分数のいくつかで表せること
- e. 仮分数→帯分数、帯分数→仮分数
- d. 数直線上の数を分数で表す

- 診断的評価テストの結果を分析し、具体的な改善策を立てるようにします。

(例) 第5学年「分数」における診断的評価テストの結果の分析

結果をヒストグラムに表し、分散傾向をとらえます。



診断的評価テスト n=35

分析

既習事項を概ね理解している児童と理解が十分でない児童との間に大きな差がある。

↓

具体的な改善策

- 理解が十分でない児童には単元に入る前に復習の時間をとる。

- 児童生徒の学習に対する意識や学習スタイルなど、個人差を把握するアンケートを作成します。

<p style="text-align: center;">《主な質問項目例》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習に対する好き、きらい 2. 学習の楽しさ 3. 学習への理解度 4. 学習のめあて(課題)の把握 5. 既習事項を活用した自力解決 6. 集団での学び合い活動への参加態度 7. 自己のふり返り(自己評価) 8. 自信度 <p>など</p>	➔	<p>(例)</p> <p>1 あなたは、〇〇(教科名)の学習が好きですか。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 好き ② どちらかといえば、好き ③ どちらかといえば、きらい ④ きらい <p>そのわけを書きましょう。</p>
--	---	---

Plan-④ 児童生徒の学習状況をふまえた指導計画の作成

診断的評価テストの分析によって必要な指導・支援を明らかにし、指導計画を作成します。作成にあたっては、系統的で、到達目標の達成をめざした指導となっているか、学習意欲を高め、問題意識を継続できる流れとなっているか等を検討しましょう。

ここでは、指導計画を含めて、学習指導案の形式例と書き方について提示します。

学習指導案の形式例と書き方

〇〇科学習指導案

指導者〇〇〇〇

1 日 時 平成〇年〇月〇日(〇)第〇校時

2 学年・組 第〇学年〇組(於:〇〇教室)

3 単元(題材)名

学習指導要領の内容のまとまりを単元名で表します。

4 指導にあたって

(1) 児童・生徒の実態

診断的評価(到達度・理解度を問うテスト、学習に対する意識調査など)の結果から明らかになった、既習事項の到達度・理解度、児童生徒の学習に対する関心・意欲・態度などの学習状況を具体的に記述します。

(2) 単元観

学習指導要領をふまえ、次のことがらなどについて記述します。

- ・ 単元の特徴や意味(単元の位置付け)
- ・ 児童生徒に身に付けさせたい基礎的・基本的事項
- ・ 既習学習内容とこれからの学習内容との関連

など

(3) 指導観

児童生徒の学習状況をふまえて、基礎・基本を身に付けさせるための学習展開や指導方法の工夫、評価の進め方、教材の開発・工夫などを具体的に記述します。

5 単元(題材)の目標

学習指導要領に示された目標をふまえて、本単元における到達目標を具体的に記述します。

6 単元の評価規準

単元の内容に即した具体的な評価規準を記入します。教科によって評価の観点は異なります。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
～しようとしている。	～考えることができる。	～することができる。	～がわかる。

7 指導計画

目標構造図をもとに、指導計画を作成します。

次	時数	学習内容	指導・支援	評価規準と評価方法
		◇学習過程に沿って、 児童生徒の活動を彼らの立場で記述します。 ・～を調べる。 ・～を知る。 ・～について話し合う。 ・～について考える。 など	◇目標に到達させるために、指導に当たっての配慮や工夫を記述します。 ・～意欲を高める。 ・～の場を設定する。 ・～助言する。 ・～を示す。 など	◇学習過程に沿って、 評価規準を具体的に記述します。 ◇評価方法も記述します。 ・行動観察 ・ノート ・ワークシート ・自己評価カード など

* 単元（題材）の目標、単元の評価規準、指導計画の作成の例については、資料1（p.15-16）をご覧ください。

8 本時の展開

(1) 主題（題材名）

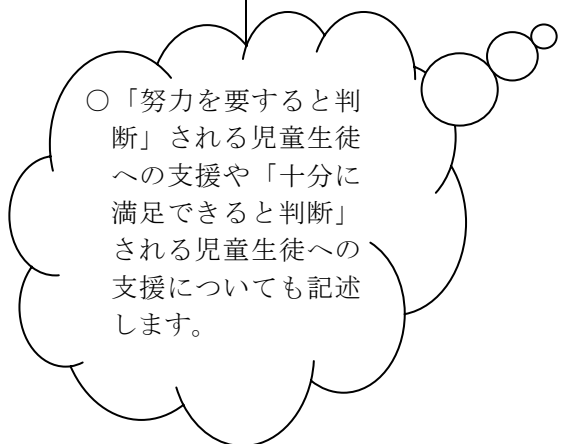
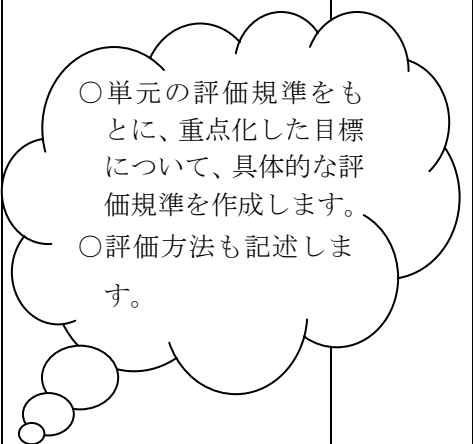
(2) 本時の目標

単元の目標をふまえて、本時の学習で児童生徒に身に付けさせたい能力・態度について記述します。

(3) 本時の指導の重点

本時の目標に迫るための工夫点について記述します。

(4) 展開

学習活動・内容	指導・支援	評価規準（観点・方法）	準備物
 <p>○「努力を要すると判断」される児童生徒への支援や「十分に満足できると判断」される児童生徒への支援についても記述します。</p>		 <p>○単元の評価規準をもとに、重点化した目標について、具体的な評価規準を作成します。 ○評価方法も記述します。</p>	

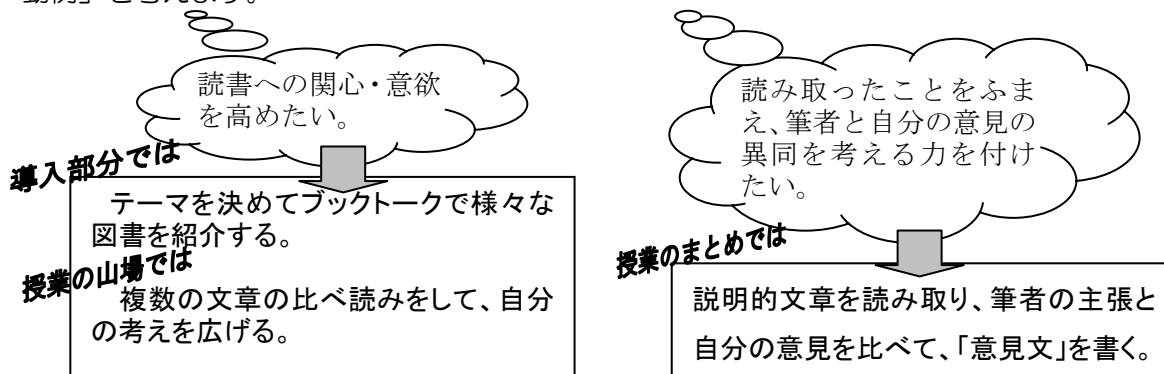
Plan—⑤児童生徒の実態に応じた教材・教具の開発と工夫

目標に迫るために、学習の目標・内容と児童生徒の実態とを関連づけながら、児童生徒の学習に対する興味・関心・意欲を喚起したり、学習を深化させたりする教材・教具を開発・工夫します。

- ・ 導入部分では、児童生徒の意欲を喚起する教材
- ・ 授業の山場では、児童生徒の考えを揺さぶる教材
- ・ 授業のまとめでは、学習内容が児童生徒に定着する教具など

<国語の例>

学習指導要領の目標や内容を確認したり教材解釈を行ったりする中で、児童生徒に「身に付けたい力」を設定します。その「身に付けたい力」を効果的に指導・学習できる「言語活動例」を考えます。



<算数の例>

導入部分での児童生徒の学習意欲を喚起するためには、「あれ、どうなっているのかな?」や「やってみたい」「考えてみたい」「調べてみたい」という意識が高まるような問題場を設定し、その提示の仕方を工夫する必要があります。

○ゲーム的要素を含んだ算数的活動の工夫

○パソコンを活用した場面提示の工夫



Do 授業実践

授業実践中の発問や板書等の指導技術については、本冊子 p.18 から p.24 をご覧下さい。

ここでは、授業実践における形成的評価（Check）の実施と、その結果をもとにした指導法の見直し（Action）について説明します。

形成的評価は、テスト、学習ノートの記述や発表の様子などを評価資料とします。その際に、児童生徒による自己評価も評価資料として活用することが有効です。

例えば、「ふり返しカード」を授業の最後に配る、ワークシートの最後に自己評価欄を載せる、ノートに自己評価を記入するなどして、自己評価する時間と場を設定します。

評価規準の共有化(Check)

その単元の目標、あるいは本時の目標が達成できたかどうかを把握するために評価規準を作成します。児童生徒が自らの学習状況を的確に把握できるよう、教師が作成した評価規準を理解しやすい表現にして児童生徒に提示する必要があります。

（例）

小学校国語科（第5学年）「目的に応じた伝え方を考えよう」

〈教師が作成した評価規準〉

ニュース番組作りの流れとポイントを叙述に即して読み取ることができる。

〈児童に提示した評価規準と自己評価欄〉

学習のふり返し

ニュース番組作りの流れとポイントを、内容や言葉(キーワード)に着目して読み取ることができましたか。

- A 読み取れた
- B だいたい読み取れた
- C あまり読み取れなかった

読み取ったことをまとめましょう

学習でわかったことや読み取ったことなどを書くようにしておくと、児童生徒の自己評価がどの程度、客観的か把握できます。

指導法の見直し (Action)

教師の形成的評価と児童生徒の自己評価をあわせて、授業の改善点を考えます。

教師の自己評価

- ・ワークシートに書き込む項目が多く、要点を押さえて読むということがうまくいかなかった。
- ・個別に支援を必要とする児童に、もっと有効な手立てが必要である。

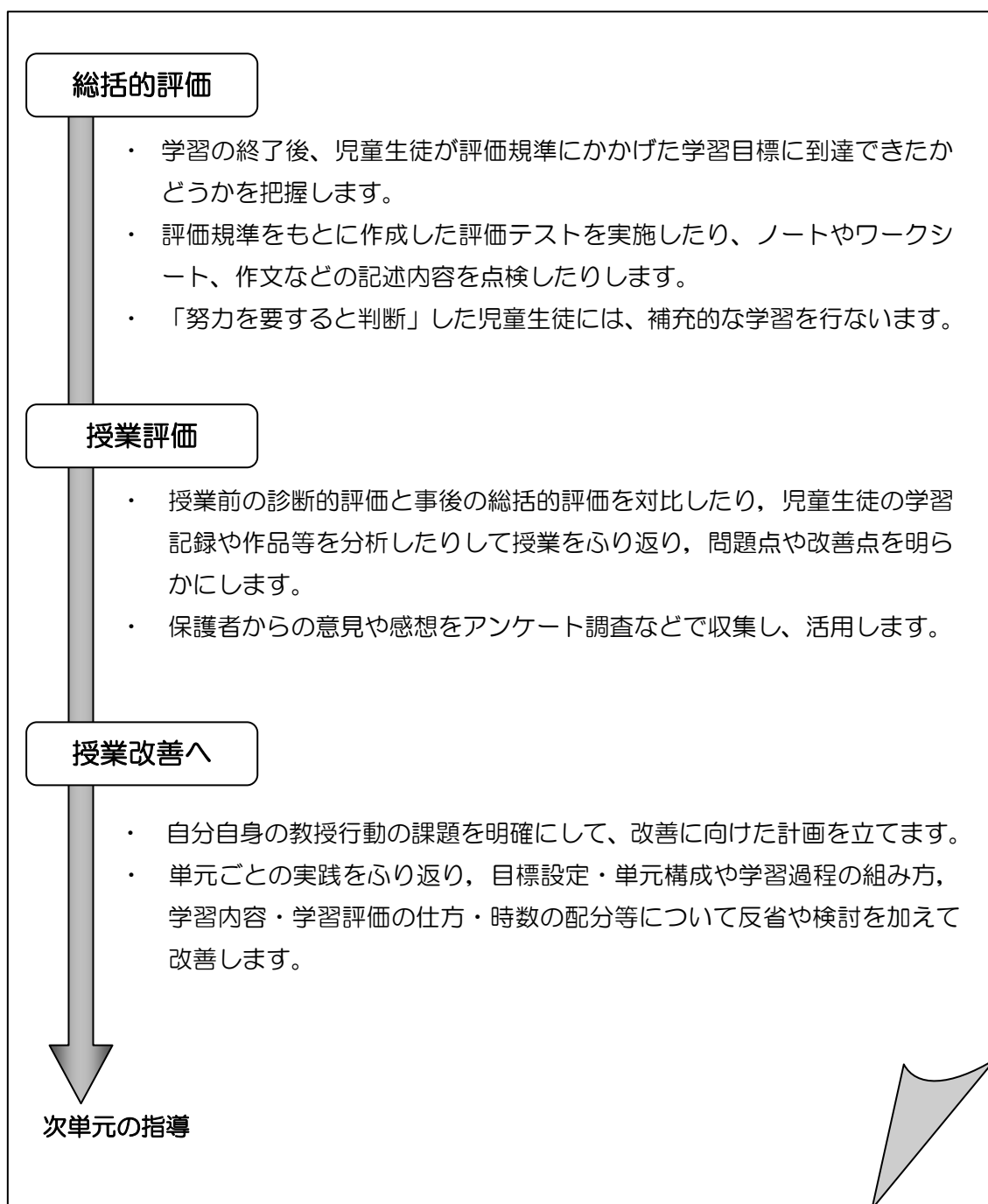


授業の改善計画

- ・教材解釈をもう一度行い、読み取らなければいけない内容を精選する。
- ・ワークシートに記入する項目をもっと絞り込む。
- ・ヒントカードの作成、発問の具体化を考える。

Check → Action 授業改善のための総括的評価と授業評価

総括的評価および授業評価によって指導の成果と改善点を明らかにし、次単元の指導に活かします。



資料1 中学校第1学年 英語科 指導案(例)

学習事項を活用して、できるようになってもらいたい技能を明確にします

<単元の目標>

1. 一般動詞 (play/like/have/want など) を用いて、自分について話すこと、相手に質問すること、聞かれたことに適切に応答することができる。
2. 一般動詞 (play/like/have/want など) を含む英語を聞いたり読んだりして、その内容を適切に理解することができる。
3. 簡単な英語で10文以上の自己紹介を書くことができる。
4. 教科書本文の要約文を正しい発音で暗唱することができる。

単元の目標が達成できたかを評価するためのものです。各時の評価規準や定期考査の問題は、これらをふまえて作成する必要があります。

<単元の評価規準>

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取組) ・「聞く」「話す」「読む」「書く」の言語活動に意欲的に取り組んでいる。 (コミュニケーションの継続) ・理解できないとき、確認したり繰り返しや説明を求めたりしている。 ・辞書で調べるなどして、意欲的に書き続けている。	(適切な発話/音読/筆記) ・聞かれたことに対して適切に応答することができる。 ・相手の理解を確認し、それに応じて話すことができる。 ・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。 (正確な発話/音読/筆記) ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて暗唱(音読)ができる。 ・文法にしたがって正しく書くことができる。	(適切な聞き取り/読み取り) ・英語を聞いたり読んだりして話の概略を理解することができる。 ・書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。 (正確な聞き取り/読み取り) ・相手が尋ねている内容を正確に理解することができる。	(言語についての知識) ・一般動詞を含む文の構造を理解している。 ・語や文の強勢やイントネーション、区切りを理解している。 (文化についての理解) ・日本と外国の生活・文化の違いを知り、理解しようとしている。

<単元の指導計画> (全7時間)

単元の到達目標の達成に向けて、段階的に各時の目標と評価規準を設定します

時	学習内容(言語活動)	指導・支援	評価規準と評価方法
1	(目標) 教科書本文の概要を理解する。 新出語句および教科書本文の英語の音声に慣れる。		
	(1) いろいろなスポーツの英語の言い方についてのクイズに取り組む。 (2) スポーツについて話されている教科書本文の概略を理解する言語活動に取り組む。 ①ワークシートの質問をふまえてCDを聞き、話される内容の概略を理解する。 ②教科書を読んで、聞き取った内容が合っていたか確認したり、聞き取れなかった内容を読み取ったりする。 ③答え合わせをし、もう一度CDを聞く。	(1) できるだけ英語を用いるトピックへの興味・関心を高める。 (2) 生徒が主体的に取り組めるよう、方法や学習形態などを工夫する。	(言語活動への取組) 【観察、自己評価カード、ワークシートの記述内容】 ・集中してCDを聞き、内容を理解しようとしている。 ・教科書を何度も読んで、ワークシートの質問に答えようとしている。 ・意欲的に発音/音読練習に取り組んでいる。 (文化についての理解) ・異なる生活・文化があることを知る。
	(3) 新出単語と本文の発音/音読練習をする。 (4) 学習内容をふり返る。	(3) 教師のあとに続いて読ませるだけでなく、様々な練習活動を工夫する。 (4) 本時の取り組みに関して口頭で評価する。	(適切な聞き取り・読み取り) 【ワークシート】 ・ワークシートの質問や選択肢をもとに話される内容の概略を理解することができる。

2	(目標) like/play の意味・用法を理解し、それらを用いて対話する。 新出語句および教科書本文の正しい発音、抑揚、強勢、イントネーションなどを理解する。		
3	(目標) have/want の意味・用法を理解し、それらを用いて対話する。 新出語句および教科書本文の意味を理解し、正しく伝わるよう発音/音読する(1)。		
4	(目標) コミュニケーション活動を通して、一般動詞(like/play/have/want など)を含む文の構造を理解する。 新出語句および教科書本文の意味を理解し、正しく伝わるよう発音/音読する(2)。		
5	(目標) 語彙や文法の知識を活用し、教科書本文の英語の要約文を完成させる。 新出語句および教科書本文の意味を理解し、正しく伝わるよう発音/音読する(3)。		
6	(目標) 語彙や文法の知識を活用し、工夫して10文以上の自己紹介文を書く。 言語材料(語彙、文法)に関する理解を深める(音声、意味・用法、文の構造など)。		
	<p>(1) 練習活動を通して、言語材料の理解を深める。</p> <p>(2) 教科書本文の要約文(第5時に取り組んだもの)の暗唱に向けた練習活動に取り組む。</p> <p>(3) 10文以上の英語で自己紹介を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 自己紹介のモデル文を読み、書かれている内容について考える。</p> <p>② これまでの学習事項を総合的に活用し、自由に自己紹介文を書く。</p> <p>③ フィードバックをもとに訂正・修正を加える。(時間があれば清書する。)</p> </div> <p>(4) 学習内容をふり返る。</p>	<p>(1) (2) 学習形態や方法を工夫し、生徒が主体的に取り組めるようにする。</p> <p>(3) 辞書を準備しておく。 必要な生徒のみ、文章のフォーマットや語彙のヒントを与える。 生徒が自ら間違いに気付くようなフィードバックを工夫する。</p> <p>(4) 完成していない生徒の個別指導を行う。</p>	<p>(言語活動への取組) 【観察、自己評価シート、ワークシート】 ・意欲的に発音/音読練習に取り組んでいる。</p> <p>(正確な読み取り)(言語についての知識)【ワークシート】(第5時) ・教科書本文の内容を正しく理解し、ワークシートの空所に適語を答えることができる。</p> <p>(コミュニケーションの継続) 【観察、自己評価シート、ワークシート】 ・辞書で調べるなどして、意欲的に書き続けている。</p> <p>(適切な筆記)【ワークシート】 ・伝えたい内容を整理し、10文以上書いている。</p> <p>(正確な筆記)【ワークシート】 ・文法にしたがって正しく書くことができる。</p>
7	(目標) 友だちの自己紹介文を読んで、情報を交換し、意見を述べ合う。 言語材料(語彙、文法)に関する理解を深める(音声、意味・用法、文の構造など)。		
	<p>(1) 練習活動を通して、言語材料の理解を深める。</p> <p>(2) 「本文の要約文」(第5時に取り組んだもの)の暗唱練習に取り組む。</p> <p>(3) 友だちの自己紹介文(第6時に書いたもの)を読んで情報を交換し、意見を述べ合う活動に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 友だちの自己紹介文を読んで回り、ワークシートの質問にあてはまる友だちを探す。</p> <p>② 友だちの自己紹介を読んで得た情報について英語で問答し合う。</p> </div> <p>(4) 単元を通しての学習内容や自分の学習行動をふり返る。</p>	<p>(1) (2) これまでの学習状況をふまえ、必要に応じて取り組む。</p> <p>(3) 書かれている内容や丁寧で正確な書き方などに注目させるワークシートを準備しておく。</p> <p>(4) 学習の成果を実感させる。</p>	<p>(言語活動への取組) 【観察、自己評価シート、ワークシート】 ・意欲的に発音/音読練習に取り組んでいる。</p> <p>(正確な音読)【暗唱テスト】 ・正しい発音で要約文を暗唱する。</p> <p>(言語活動への取組) 【観察、自己評価シート、ワークシート】 ・積極的に友だちの自己紹介文を読み、情報を収集している。 ・積極的に問答活動に参加している。</p> <p>(適切な読み取り) 【ワークシート、定期テスト】 ・英語の自己紹介文を読み、内容を理解することができる。</p>

4. 「指導技術力」を高める

(1) 発問のしかた

発問は、子どもの学習への興味・関心を高め、問題を追究したり、思考を深めたりするための大切な指導技術です。どの場面で、どのような発問が適しているのかを、整理し、授業の中で、適切に発問できるようにしましょう。

◆ 指導過程の段階による発問の分類

	発問の内容
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容への興味・関心をもたせるような発問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「～について、知っていることはありませんか。」 ・ 「～を見て気が付いたことはありませんか。」 ○ 学習の方向付けをするような発問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「調べてみたいこと（考えてみたいこと）は何ですか。」 ・ 「わかっていることは何で、はっきりしていないことは何ですか。」
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決の見通しをもたせるような発問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「どのように学習したら問題が解決するでしょう。」 ・ 「何を使って調べるとよいでしょう。」 ○ 問題を追究し、思考を深めるような発問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「これらのことからわかったことは何ですか。」 ・ 「なぜこのようになったのだと思いますか。」 ・ 「わかりやすい文章でまとめてみましょう。」 ・ 「～さんの考えと似ているところや、違うところは何か。」
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことをまとめるような発問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「今日の学習でわかったことはなんですか。」 ・ 「今日の学習のまとめを、自分の言葉で書いてみましょう。」 ○ 次時へのつながりを図るような発問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「今日の学習をもとに、次に学習してみたいことは何ですか。」 ・ 「今日解決できなかったことがありました。次の時間にはどのようなことをすればよいでしょう。」 ○ 自他のよさを認め合う発問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「今日がんばったことやわかったこと、できるようになったことは何ですか。」 ・ 「友だちの考え方（学習の仕方）のすばらしいところを言いましょう。」

◆ 発問時の留意点

＜発問チェックポイント＞

- クラスの全員が理解できて、簡潔なものになっているか。
 - 同じ答えでも、自分なりの表現で発言できるようにしているか。
 - 一問一答に終始せず、多答になるようにしているか。
 - すぐに挙手する子どもがいても、すぐに指名せず、全員に考える時間を与えるようにしているか。
 - 発問に対して、子どもが答えにくそうにしていたら、視点を変えたり、ヒントを与えたりして、考えやすいようにしているか。（ただし言い換えを頻発させないように留意する。）
 - 子ども同士の発言を、比較したり関連させたりするように工夫しているか。（別の意見、付け足し、質問など）
 - 子どもの発言の真意がくみ取れない場合、表現を変えるなどして問い直しているか。
 - 子どもの発言が表面的な場合、揺さぶる発問を投げかけているか。
-
- にこやかで親しみやすい表情で話しているか。
 - まちがいや失敗を気にさせないように、受容的共感的な受け止め方をしているか。
 - どの子どもにも公平に接する表情と態度になっているか。
 - 発問の種類によって、声の大きさや表情を工夫しているか。



ワンポイントアドバイス

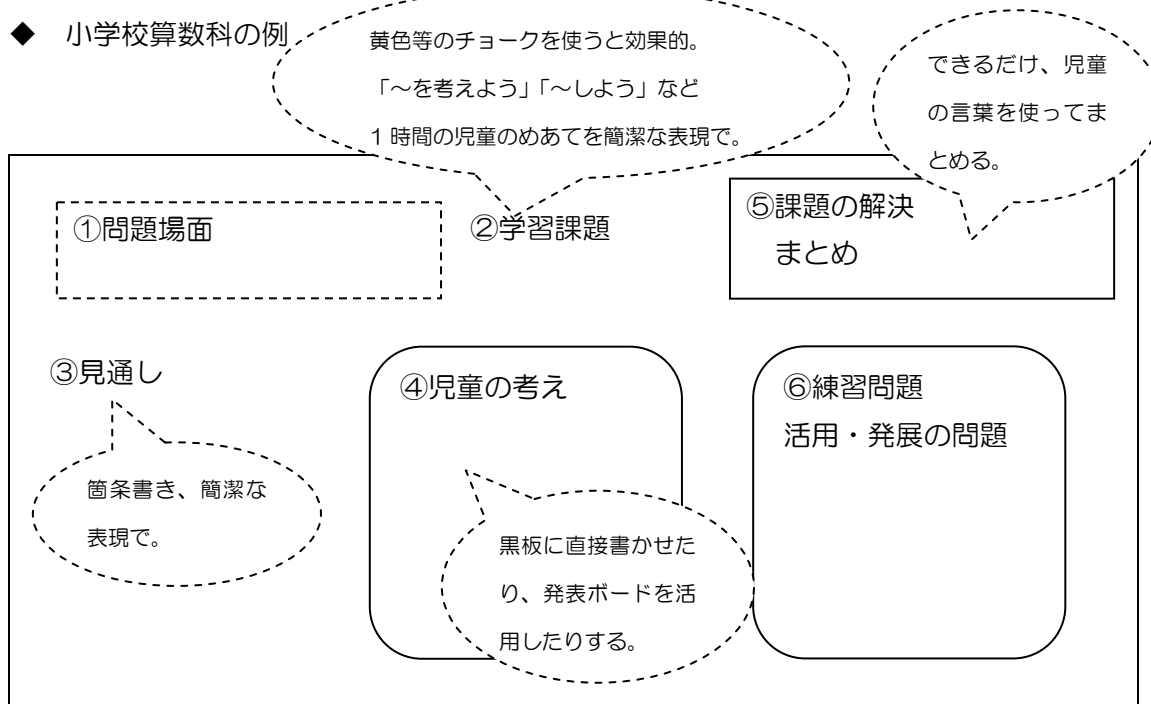
**児童の意欲を喚起し、
学習に興味をもって取り組めるようにするために気を付けたいこと**

- 命令調の指示ではなく、努力への賞賛や承認、激励の言葉などを織り交ぜ、温かさが感じられる応答になるようにしましょう。

(2) 板書のしかた

板書は、次のような構成を基本とすると、1時間の問題解決の学習の流れがわかりやすくなります。(①、②、…は1時間の学習の流れを表しています。)

◆ 小学校算数科の例



◆ 板書する時の留意点・工夫点 (岩手県立総合教育センター「校内授業研究の進め方ガイドブック」)

<板書チェックポイント>

- 筆順、字形、文字の大きさに注意して、丁寧に書いているか。

文字の大きさの目安

小学校1年生：18～20cm 2年生：16～18cm

3年生：14～16cm 4年生：12～14cm

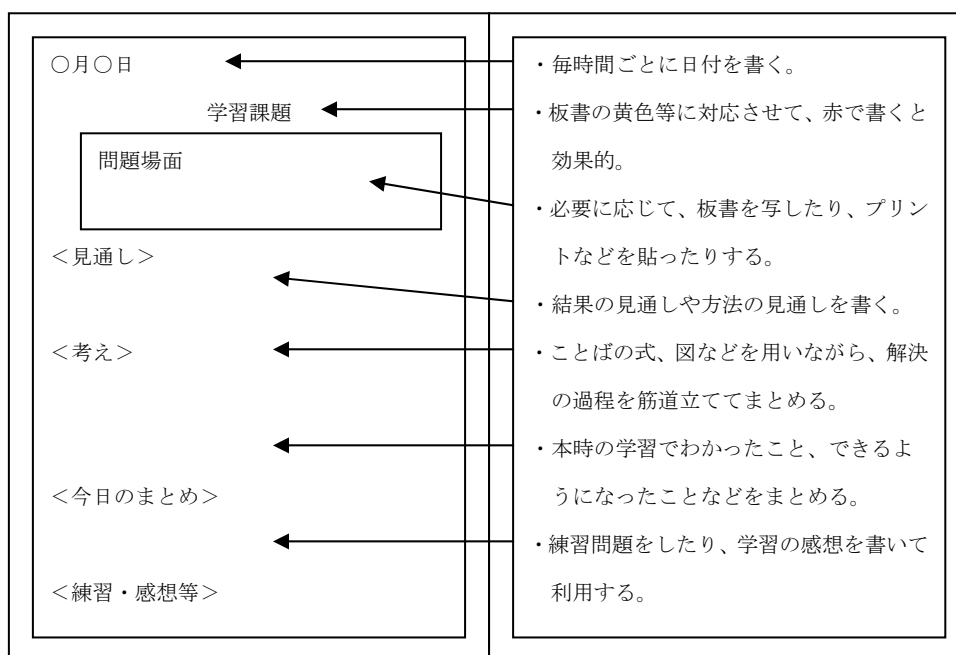
5年生：10～12cm 6年生：5～8cm

- 子どもがノートをとるスピードに考慮しながら書いているか。
- 書いた事項はできるだけ消さないようにしているか。
- 子どもが発言しているときは、原則として板書をやめているか。
- 色チョークの使い方を決め、情報を整理しやすくしているか。
 - ・子どもの発言は、共通なもの・似ているものなど整理して書く。
 - ・対照関係を浮かび上がらせるなどの工夫をする。
- 板書に子どもを参加させ、学習意欲を高めているか。
- 定規・分度器・コンパスなどの器具を正しく使っているか。
- 黒板の前に立ちはだかっているか。

(3) ノート指導のしかた

ノートは、単に板書を写すだけのものではなく、板書を参考にしたり、比べたりしながら自分の考えをふり返り、一人一人が自分のノートを作り上げ、次の学習へ活かすものと捉えて指導します。

◆ノートの工夫の仕方（小学校算数科の例）



◆ ノート指導の留意点・工夫点

<ノート指導チェックポイント>

- 鉛筆の持ち方や書くときの姿勢について指導しているか。
- 板書内容を理解しながらノートする技能を身に付けさせているか。
(文節ごとに区切ってノートに写すなど)
- 速く書くときと、丁寧に書くときを区別させて、ノートさせているか。
- 自分や友だちの考え、教師の言葉などを付け加えてノートさせているか。
- 授業中に、机間指導を行い、ノートのとり方を指導しているか。
- ノートを定期的に集め、子どもの実態（つまづきやよさ）の把握に努めているか。
- 学習した日付や、学習内容が分かるように見出し等をつけさせているか。
- ゆとりをもってまとめられるよう、ノートをとる時間を設定しているか。

(4) 机間指導のしかた

机間指導は、子どもの学習の理解度を把握し、個別に指導を行うチャンスです。次の点を留意しながら行いましょう。

◆ 机間指導の留意点

<机間指導のチェックポイント>

- 一人一人の学習状況を的確に把握する。
 - ・ 学習課題をしっかりと把握しているか。
 - ・ どのような考え方をしているか。
 - ・ つまずきはないか。
 - ・ 学習速度はどうか。
- 個に応じた指導を行う。
 - ・ 個別指導を行う際は、視線を子どもと同じにするなどの配慮をして支援する。
(小学校高学年くらいになると、友だちの面前での個別指導を嫌う児童が増えてくるので、配慮が必要である。)
 - ・ 問題場面をしっかりと理解させる。
 - ・ 学習課題を明確につかませる。
 - ・ 課題解決の方向性を示唆する。
 - ・ 励ましの言葉かけや丸つけなどを行う。
 - ・ 他の子どもの学習への集中力を切らさないように配慮する。
- どの場面でどのように行うのか、計画性をもって臨む。



ワンポイントアドバイス

机間指導の時間は、限られた短い時間しかありません。短時間で指導ができる場合は行いますが、時間がないときには、実態把握や励ましに重点をおくとよいでしょう。(他の時間を見つけて補充指導したり、家庭学習で課題を出したりするようにするとよいでしょう。)

自力解決場面において、つまずいている子どもは不安で一杯です。安心感を与えながら、解決の方向性をつかませることが大切です。


<例>「ここまでできたんだね。次は、こうやってみるといいよ。」など。

(5) 個に応じた指導の工夫

学習に見られる個人差や特性には、さまざまなものがあります。


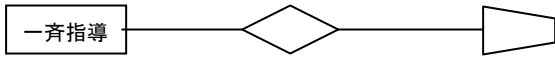
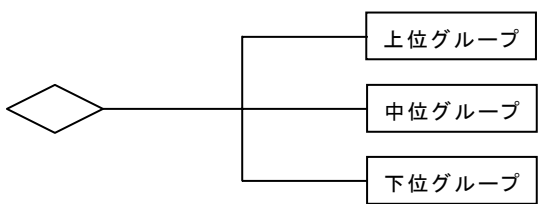
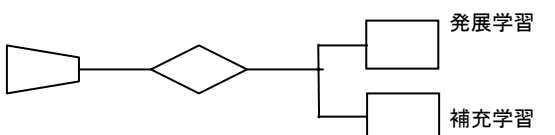
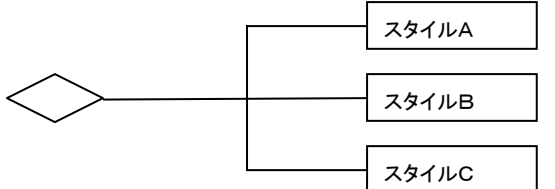
＜学習に見られる個人差・特性＞

- 習熟の程度の違い
 - ・ 何が習得されていて、何が未習得か。
- 学習速度の違い
 - ・ 理解、解決、表現など活動に係る時間の速さ。
- 学習方法・学習スタイルの違い
 - ・ 学習計画の立て方、自己評価の仕方。
 - ・ 具体的操作が必要かどうか。
- 学習意欲、学習態度の違い
 - ・ その学習活動に意欲的に取り組んでいるかどうか。
- 生活経験の違い
 - ・ その学習の基礎能力となる生活経験が有るか無いか。



このようにさまざまな点において、個人差・特性があることを教職員は十分に理解することが大切です。その上で、どのようなモデルの指導を行うかを考えましょう。

個別化教育のためのモデル (第166号奥田真文、河野重男監修『現代教育学辞典』ぎょうせい1993をもとに作成)

	モデル	サブ・モデル	指導・学習のパターン
指導の個別化	1 一斉授業補足 モデル	A. 一斉授業補充モデル	
		B. マスターリー・ラーニング モデル(完全習得学習)	
	2 類型別グループ モデル	A. 学力別グループモデル (到達度別学習)	
		B. 学力+αグループ モデル	
	3 学習ベース モデル	A. 単元内進度別モデル (自由進度学習)	
		B. 無学年制モデル(無学年制学習)	
	4 学習スタイル モデル	A. 学習の仕方モデル (適性処遇学習)	
		B. 認知スタイルモデル	

 評価活動(形成的テストなど)  個別指導(グループ学習、ひとりの学習)  学習課題

5. 授業づくりの基盤となる資質能力を身に付ける

カウンセリングマインドをもった指導

学級集団が、すべての子どもにとって学校生活の基礎集団になっていることは言うまでもありません。したがって、「学級づくり」は子どもが学校生活に充実感をもって受け止める基本的な条件づくりであります。

◆ 共感的理解を深めましょう。

子ども理解を深めるためには、子どもと教師の人間的なふれあいがあってこそ、その効果が期待できます。カウンセリングマインドについて理解し、指導にあたっていきましょう。

カウンセリングマインドの3つのキーワード

- ・ 尊敬 — 人それぞれいろいろな違いはあるが、人間の尊厳に関しては違いがないことを受け入れ、礼節をもって接する態度
- ・ 共感 — 相手の関心に関心をもつこと
- ・ 勇気 — 困難を克服する活力

＜カウンセリングマインドにおける基本姿勢＞

- ① 人は誰でも自分らしさを求め、よりよく成長したいと思っている存在と考える。
- ② 対等の立場で向き合う。
- ③ 子どものありのままの姿を受け入れるとともに、子どもの話をよく聴く。
- ④ 子どもがどんな気持ちや考えているのか、子どもの立場で理解しようとする。
- ⑤ 話の途切れた沈黙を無駄な時間と考えず、解決を急ぐような問いかけをしない。

◆ 自らの教育活動をふり返りましょう。

＜教育相談的姿勢をもった教育活動の例＞

- ① 指名の際は、子どもの名前と呼ぶようにしているか。
- ② 子どもがのびのび発言できる雰囲気づくりや言葉かけを行っているか。
- ③ 授業のルールを明確に示し、授業を乱す子どもに対して毅然として注意しているか。
- ④ 不完全な解答であっても、その中にある子どものよさを認めるようにしているか。
- ⑤ 答えにつまずいた子どもに、その気持ちに寄り添う適切な援助を行っているか。
- ⑥ 授業の中で、子どもをほめることや励ますことを大切にしているか。
- ⑦ わかりやすい授業を心がけ、教室の後ろまでとおる声で授業を行っているか。
- ⑧ 子どもが自分で考え、答えを見つけ出せる喜びを実感できる授業を展開しているか。
- ⑨ 子どもが受身になっていないかどうか、点検しながら授業を行っているか。
- ⑩ 特別活動等を通して、子どもとのかかわりを大切にしているか。

参考：江戸川区教育委員会「豊かな心をはぐくむためにくいじめ発見・対応、くいじめ防止のための実践プログラム」

(平成18年11月)